

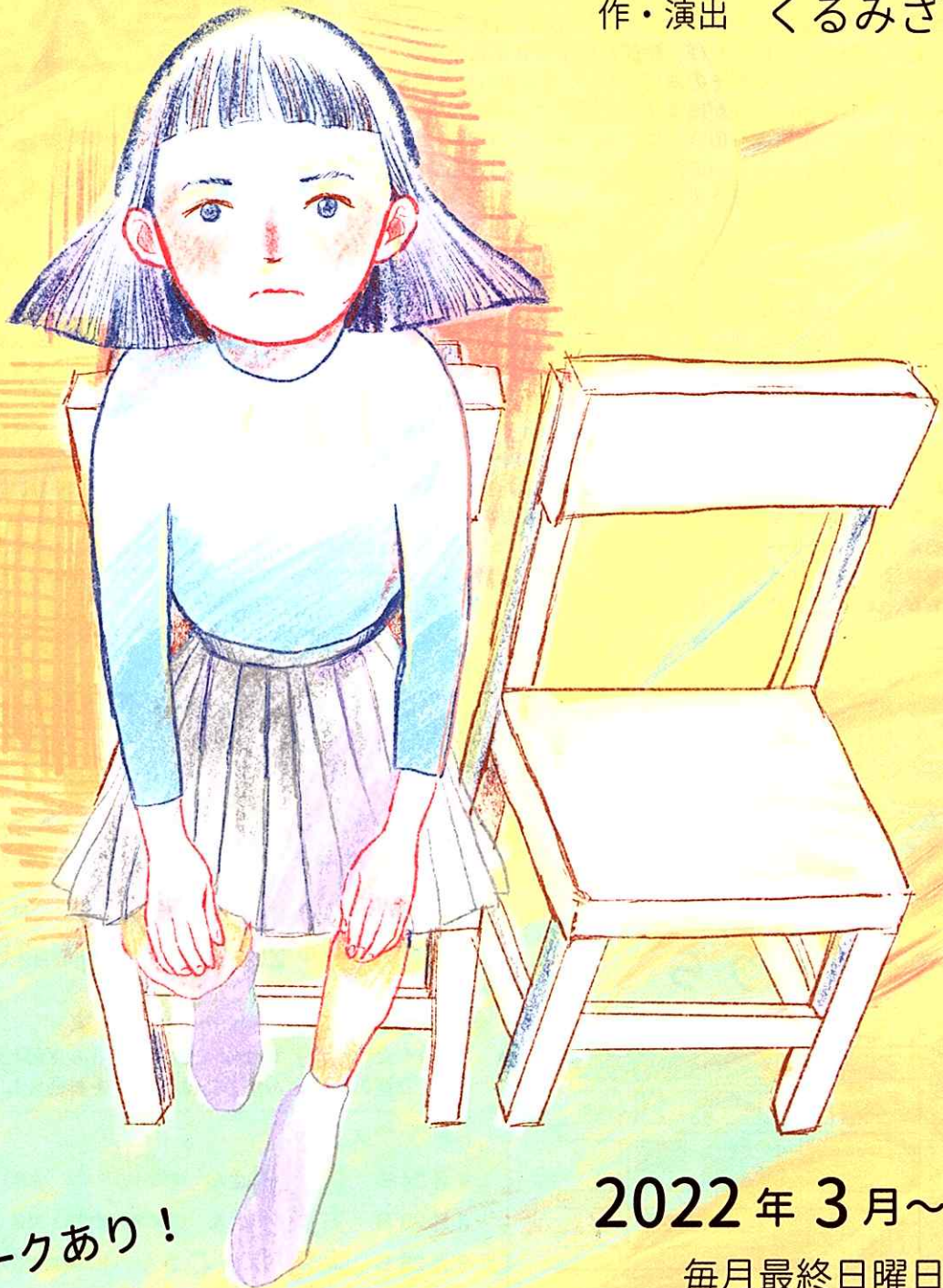
戦時性暴力をテーマにした2作

宮村信吾 一人芝居

南澤あつ子 一人芝居

あの少女  
の隣に  
市長公室の  
木村さんが

作・演出 くるみざわしん



各回とも  
アフタートークあり！

2022年3月～11月

毎月最終日曜日 上記2作を  
交互に上演

スペースふうら

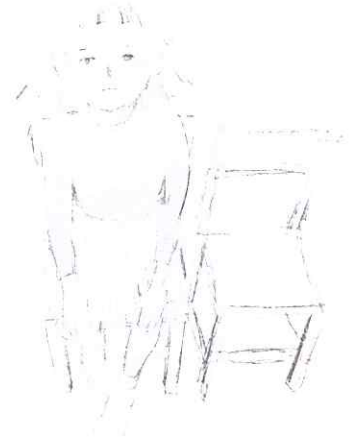
# 戦時性暴力をテーマにした2作

宮村信吾 一人芝居

3/27 5/29 7/31 9/25 11/27 計5回

## あの少女の隣に

舞台にはイスが2つ。荷物袋を抱えた男が通りすぎる。気配を感じて立ち止まった男は、あなたに向かって語り始める。荷物袋から、銃、ヘルメット、軍靴、水筒、乾パンを取り出し、イスに並べる。男は戦争を語っている。戦争と男が、明治の初めから現在までどんなふうに関わり、何をしてきたのか。男の話は脇に脇にそれながら、少しずつ男の正体を明かしてゆく。なぜ荷物袋を持ち、ここにやってきて、あなたに話しかけるのか。少女とは誰なのか。



4/24 6/26 8/28 10/30 計4回

市長公室初の女性職員である木村さんは「飲み会を絶対に断らない女」。男ばかりが優遇される職場で実績をあげ、幸運を引き寄せるために仕事も絶対に断らなかった。ところがその木村さんに、「平和の少女像」を設置したドイツの姉妹都市に市長が出す手紙を翻訳せよ—という命令が。手紙を出せば他国の自治体への介入になる。そもそも市長の手紙には主語がない。どう訳したらいいのか。困りに困る木村さんを助けてくれる人はいない。いったいどうすれば。

南澤あつ子 一人芝居

## 市長公室の木村さんが

2019年の「あいちトリエンナーレ」で「表現の不自由展・その後」が公開中止に追い込まれた時、誰かと話がしたくなって、演劇関係者の集まりに参加した。参加者の一人が口を開き、何を言っているのかわからなかった。数人が質問し、その人は日本軍慰安婦が事実なのかかわからない、事実ではないかもしれないという前提で発言しているのがわかった。学歴という点から見ればおそらく教育程度の高いその人の発言を聞きながら、学校教科書から日本軍慰安婦の記述を消したことの効果がこんなふうに見えるのだと思った。よくしゃべるその人は言葉の能力には優れているのだろうが、その力は隠べいに見事に利用されている。本人なりに考えてしゃべるほど論はふくらみ、他の分野の論や事例を吸収して大きくなってゆくが、出発点での認識が誤っているので、何が言いたいかわからなくなってゆく。そのわからなさ具合を楽しむのが芸術だ、演劇だと言い出すんじゃないか。

演劇にあらためて目を向けてみると、日本軍慰安婦を主題にした演劇作品がそもそも少ない。ないことにしてはならない国家犯罪であり、戦時性暴力という国際的に緊急の問題に取り組む作品がほとんどない。私自身も書いてない。「表現の不自由展・その後」の中止をうみ、あの人の発言をうんでいる。

戦時性暴力・日本軍慰安婦をテーマに芝居を何本か書いて、それぞれを月1回上演すれば毎週どこかで戦時性暴力・日本軍慰安婦の芝居を観ることができる。そんな状況を大阪に作ってみたい。新型コロナに遮られて、なかなか前に進めなかったが、ようやく2作のロングランが実現する。毎週とはゆかず、月1だが、上演にこぎつけた。観に来て欲しい。

作・演出 くるみざわしん

2022年3月～11月 毎月最終日曜日 上記2作を交互に上演 14時開演

### 上演のタイムスケジュール

13時30分 開場  
14時 開演 上演・アフタートーク  
16時 終了

チケット 要予約・当日清算のみ

前売り・当日共に2000円 \*2022年2月1日予約開始

申込み先 電話 090-1223-7120 (受付: 平日12時～18時)

メール 2022fuura@gmail.com

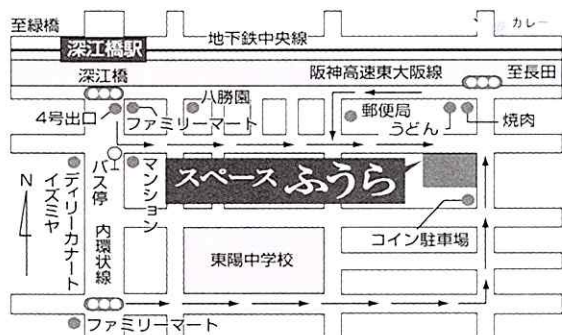
会場 スペースふうら

★全公演にアフタートークがあります。

「あの少女の隣に」では作・演出のくるみざわしんが。  
「市長公室の木村さんが」ではゲストをお迎えして。

### トークゲスト

- 4月24日 金民樹さん (劇団タルオルム 主宰)
- 6月26日 方清子さん (日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク)
- 8月28日 大椿ゆうこさん (社民党副党首)
- 10月30日 平井美津子さん (子どもと教科書大阪ネット21事務局長)



●地下鉄中央線深江橋駅4番出口から徒歩5分  
大阪市東成区深江北3-4-11 Tel 090-1223-7120

主催 「あの少女・木村さん」関西上演実行委員会